

平成15年度 産学官連携功労者表彰

平成15年6月19日

賞	受賞事例・受賞者	受賞理由
内閣総理大臣賞	<p>「大口径・高密度プラズマ処理装置の開発」 次世代以降の先端LSI製造に必須な“低ダメージプラズマ処理装置”を開発。</p> <p>東北大学名誉教授 東北大学未来科学技術共同研究センター客員教授 大見 忠弘 東京エレクトロン株式会社</p> 	<p>国・NEDO（ネド；新エネルギー・産業技術総合開発機構）の研究開発プロジェクトの下で東北大学が開発した先端技術をもとに、東京エレクトロン株式会社が世界一の優れた性能の半導体製造装置の開発に成功し、我が国産業の競争力強化に貢献。</p>
科学技術政策担当大臣賞	<p>「歯科・頭頸部用小照射野X線CT装置の開発」 歯学医療に最適化した、X線被爆量が少ない、病変部位を任意角度切り出し表示可能な、小型CTの開発。</p> <p>松本歯科大学助教授（日本大学講師） 新井 嘉則 株式会社 モリタ製作所代表取締役 森田 隆一郎 日本大学総長 NUBIC(日本大学国際産業技術・ビジネス育成センター)センター長 瀬在 幸安</p> <p>「近赤外分光分析法を応用した果実の品質計測機器の開発」 果実に、特定の波長領域の光を照射し、その透過光を分析することによって、果実成分及び果肉の内部障害を非破壊で測定する装置の開発。</p> <p>株式会社 果実非破壊品質研究所</p>	<p>大学からの技術移転の極めて優れた成功モデルであり、また歯科診療・治療に大きく貢献していることも高く評価された。</p>  <p>産学官連携の研究開発の成果による技術的なブレイクスルーが顕著であるだけでなく、高品質果実の生産に大いに寄与し商業的にも成功。</p> 
	<p>「寝たきり予防と医療費削減を可能とした地域の健康作りシステムの開発」 中高齢者の生活機能の増進と寝たきり予防の運動プログラム、地域で使用できるメディカルチェックシステムの開発、寝たきり予防のための筋力トレーニングシステムの開発。</p> <p>筑波大学講師 久野 譜也 筑波大学教授 松田 光生 大洋村村長 石津 政雄</p> 	<p>寝たきりを予防するための運動プログラムを共同で開発し、地域で効果を実証して健康寿命の延長と医療費の削減に成功するとともに、ベンチャーを設立して全国普及を推進。</p>
総務大臣賞	<p>「YRP（横須賀リサーチパーク）における移動通信技術の研究開発と産学官連携の推進」 電波・情報通信技術に特化した研究開発拠点として、産学官、国内外の研究機関を多数集積し、世界標準の獲得や世界に先んじた実用化に成功。今後、国内・国際市場への製品展開が期待。</p> <p>YRP研究開発推進協会</p>	<p>YRP研究開発推進協会が、進出機関間の研究交流促進のための取り組みを地道に且つ継続的に実施し第3世代携帯電話等の開発に成功し、世界標準や多数の特許を獲得。</p>  <p>YRPで開発された主なW-CDMA端末</p>

賞	受賞事例・受賞者	受賞理由
文部科学大臣賞	<p>「HGF 遺伝子治療薬の開発」 血管を再生する遺伝子治療薬の開発。</p>  <p>大阪大学教授 森下 竜一 大阪大学教授 金田 安史 アンジェスエムジー株式会社代表取締役社長 山田 英</p>	<p>大学発ベンチャーとして初の上場を果たすなどモデルケースとなるとともに、遺伝子治療薬としての研究成果の革新性及び技術的水準は高く既に米国で臨床試験に入るなど今後の発展が極めて有望。</p>
	<p>「やさシートの開発」 野菜等を長持ちさせ、自然に廃棄できる薄膜の開発。</p> <p>慶應義塾大学助教授 白鳥 世明 株式会社プラスト代表取締役 林原 仁 慶應義塾大学知的資産センター所長 清水 啓助</p>	<p>大学の高度な研究成果をTLOを介して民間企業に技術移転し、身近に商品化され、売上実績を実際にあげている代表事例。</p> 
	<p>「超精密半導体計測技術開発」 次世代半導体生産技術の確立に不可欠な超精密（0.1ミクロン以下）計測技術を中心に、その基礎となる超精密高速ステージの開発。</p> <p>熊本県知事 潮谷 義子 熊本大学教授 久保田 弘 熊本県地域結集型共同研究事業事業総括 松村 敏人</p>	<p>科学技術振興事業団の地域結集型共同研究事業を活用し、強いリーダーシップのもと地域における取組みとして大学の基礎研究の成果を企業の実用化研究や製品化、ベンチャー創出につなげる活動。</p>
経済産業大臣賞	<p>「3次元音響技術の研究開発」 仮想音響技術を基に立体音響再生装置の開発。</p>  <p>株式会社ダイマジック代表取締役会長 濱田晴夫</p>	<p>内外の大学との共同研究により開発された仮想音響技術特許を基に、大学発ベンチャーが大学と共同で立体音響再生装置の実用化に成功、普及した。</p>
	<p>「INS（岩手ネットワークシステム）による地域産学官連携活動」 岩手県の科学技術と産業振興を図るため、会員の共同研究グループの育成や企業講座、科学技術普及の公開講座・講演会等を開催。地場企業の技術開発、新産業の創出に向けた環境・基盤づくりに大きく貢献。</p> <p>INS (岩手ネットワークシステム)</p>	<p>岩手地域において、地域産学官のネットワーク構築を進め、新産業創出に向けた環境・基盤づくりに成功。地域産学官連携の最も優れた事例として地域経済活性化に多大なる寄与。</p> 
日本経済団体連合会会長賞	<p>「HORBによる分散管理環境の開発」 “誰にでもすぐに使える”世界で初めての実用的な分散オブジェクト技術の基本ソフトの開発。異なるアプリケーション、異なるマシン体系を連結させるための糊として機能。</p> <p>独立行政法人産業技術総合研究所情報処理研究部門 主任研究員 平野聡 HORB Open運営委員会</p>	<p>分散オブジェクトの基本ソフトの開発によって様々な産業分野に多大な影響を与えると同時に日本から世界に基本ソフトを提供するという成功事例。</p>  <p>(写真 株式会社東芝提供)</p>
日本学術会議会長賞	<p>「窒化物半導体による青色発光デバイスの開発」 青色発光ダイオードの実用化によりフルカラーディスプレイ、信号機、超高密度光ディスク（DVD）の実現に寄与。</p> <p>名古屋大学 名誉教授 赤崎 勇</p> 	<p>開発が極めて困難とされた窒化物半導体の高品質結晶育成技術の開発に世界で初めて成功し、現在、大きな市場となっている青色発光デバイスの実用化への道を開いた。</p>